



2021・4・21

第 407 号

101-0065 東京都千代田区

西神田 2-5-7 神田中央ビル 303

TEL 03-3221-5075

FAX 03-3221-5076

「戦争放棄」のはずが「敵」をもつ国に!?

首相訪米で日米同盟強化を確認

憲法案審議の衆院本会議で、当時の吉田首相は第9条について、「かかる思い切った条項は、凡そ従来の各国憲法中に稀に見るものであります。かくして日本国は、恒久の平和を念願し、その将来の平和と生存をあげて、平和を愛する諸国民の公正と信義に委ねんとするものであり、この高き理想をもって平和愛好国の先頭に立ち、正義の大道を踏み進んで行こうという固き決意を国の根本法に昭示せんとするものであります」と説明しました(46年6月25日)

今回、アメリカでおこなわれた日米首脳会談は、公然と中国を「共同の敵」と見なしています。憲法の原点に立ち返った政治こそいま求められています。国際情勢が緊迫の度を増しているいま、制定時の原点に戻ることこそ求められているのではないでしょうか。

国民の目を憲法に向ける努力を

【九条科学者の会】 九条科学者の会は10日、菅義偉首相のもとで進む改憲策動を

改憲しなければ「超法規的措置」も!

(4/15 衆憲法委 自民野田毅委員要旨)

自民党結党の原点は自主憲法の制定だった。外国から押し付けられた憲法は、日本の矜持からすれば許し難いものがあった。しかしその後冷戦になり、昔と同じ憲法にしようという人はほとんどいない。

今の憲法、成文憲法ですから、英語で書いた日本国憲法は変わっていない。今、日本が行っていることは、英語で書いた憲法と全然違うことをやっている。書いてあることとやっていることは全然違う。安全保障の問題もそうだ。われわれが若いころ、自衛隊は特車といていた。憲法あって国滅びるというわけにはいかない。

ただ憲法でどうかを決めるのは最高裁で、いま合憲ということが違憲になることも今後ありうる。いまのままいくと超法規的措置ということが必ず出てくる。

テーマに、発足16周年の集いをオンラインで開きました。

防衛ジャーナリストで元東京新聞編集委

員の半田滋氏と、日本学術会議の元第1部長で現連携会員の小森田秋夫・神奈川大学特別招聘(しょうへい)教授が講演しました。

半田氏は、敵基地攻撃をめぐる日米一体化の現状を詳述しました。米中対立が緊迫する中、日本政府が敵基地攻撃能力保有の検討を公言し、インド太平洋、南シナ海で米軍と自衛隊の共同訓練を展開している危険性を指摘。「日本は、米中双方に戦争を回避させるよう知恵を絞る立場ではないか」と述べました。

小森田氏は、菅首相による学術会議会員任命拒否問題を多角的に検証。8日に学術会議幹事会が公表した学術会議のあり方についての素案は、現在の形態は「学術会議がその役割を果たすのにふさわしい」としていると指摘しました。任命拒否の経緯の説明を拒む政権を情報公開請求などで追及し、さらには政権交代が必要と強調。学者の世界の問題とされないよう「憲法23条『学問の自由』が市民社会にもたらす意義を深化させなければならない」と訴えました。

まとめの発言をおこなった会の共同代表である志田陽子・武蔵野美術大学教授が、憲法問題への国民の注視が必要だと呼びかけました。

反響に励まされスタンディング

【岡山県津山市／「安保関連法」の廃止を求める市民の会】 毎月19日に津山市の鶴山城の下の交差点で、「安保関連法」廃止を求める市民の会が主催する行動に、連れ合いと共に参加しています。

大きな横断幕やプラカードを持ってのサイレントスクンディング。核兵器禁止条約

が発効したばかりの日は、禁止条約を批准した50カ国の国旗と核保有国が目立つプラカードを作りました。

3月も、1人でも注目してくれたらと思うで立っていたら、中学生くらいの男性4、5人が「日本は批准していないのですか?」「そうです唯一の戦争被爆国の日本が批准していないのです」と対話になりました。

ある日、隣に立つ友人のプラカード見て近づいてきた青年が「自分は春から自衛隊に入る。災害救助などに使命感を持っているが、国際情勢を見て不安。戦争は絶対反対だし、海外派兵もいやだ」と。

若者たちのこんな声を聞けたうれしさとともに、入隊する青年の未来に不安を感じずにはられませんでした。

([しんぶん赤旗] 4月7日読者のひろば 矢野昌之)

コロナ警戒しつつ82回目のデモ

【和歌山県／憲法9条を守る和歌山県弁護士会】 桜もすっかり散り春たけなわの日とはいえ、新型コロナウイルスの感染症は第4波に入ったのは間違いないと政府の分科会ですら言っている4月14日、第82回「憲法の破壊を許さないランチタイムデモ」(呼びかけ「:憲法9条を守る和歌山弁護士の会」)が、80名の市民が参加して行われました。

今回のコーラーは、1月13日の第79回のランチタイムデモでコーラーを務められた重藤雅之弁護士が務められました。

「感染症対策に留意しながら、今日も憲法の大切さを訴えていきましょう」との挨拶があり、デモは出発しました。

参加者は和歌山城西の丸広場から京橋プロムナードまで、重籐弁護士のコールに合わせて、「憲法壊すな」「9条守れ」などを訴えて行進しました。

(「九条の会・わかやま」423)

市内9つの9条の会とともに

【大阪府高槻市／日吉台9条の会】 高槻北部の住宅街・日吉台地域で9条の会を作ったのは2006年5月、会員は100人弱で、講演会・学習会・スタンディング・ニュースレターの発行など。

2015年6月小森陽一さん講演会、9月19日安保法制＝戦争法の成立。澤地久枝さんのメッセージに呼応して毎月3の日に金子兜太さんの書いた「あべ政治を許さない」のポスターを掲げ、地元のスーパー前で演説とビラまきと署名集め。2020年9月3日は「平和行進」を迎えるために、場所を日吉台交差点に変更。2021年はコロナ禍で中止したが、4月3日から再スタート。いつもタクシーに乗って車いすで参加するKさんに励まされ、5人から8人くらいの30分だけのスタンディング。

通りがかった小学生の男の子に「9条ってなあに」と聞かれたり「日吉台にも9条の会があるの?」と言われたり「ビラはお断り」と見向きもされなかったり、反応はいろいろだが、季節ごとに変わる街路樹の美しさに心が洗われる。

2017年、関西芸術座の河東けいさん(当時92歳)の一人芝居「多喜二の母」の上演、2018年の総会では、アンサンブルGGによる男性コーラスと和田幸子さんの講演「行方定めぬ世界と私たちの暮らし…憲法9条が保

障するもの」のほかに、私たち世話人が朗読劇団「ことは座」の栗本さんの指導を受けて、茨木のり子・谷川俊太郎・石垣りん・峠三吉の詩の朗読と憲法前文の群読に挑戦。

今年は、「戦意高揚ポスター展…あの頃と今と」を近所のしんわ会館でおこなう予定。高校の社会科の教師だった河田敦史さんが集めて授業で使ったもの。「戦前日本の国民の戦争協力は、国家が強制しただけではなく、自発的なものも…。相互監視の下で誰もが戦争に協力…、国民をこの行動に駆り立てたのが当時のメディアによる戦争プロパガンダ(戦意高揚宣伝)でした。今回は「写真週報」を中心とした雑誌、ポスター(複製品)といったプロパガンダのメディアを展示します」(昨年ドタキャンになったビラから)

高槻には日吉台9条の会以外にも9つの9条の会があり、映画会や演劇に取り組んだり、毎月9と19日の駅前宣伝や地域ごとの学習会やスタンディングをやっています。全国の仲間の皆さん、「清く正しく美しく」誇り高く活動しましょう!

(日吉台9条の会事務局長 正路怜子)

若い人の参加を重視して

【千葉県流山市／九条の会・流山】 私たちの会は入会金や会費を頂きません。会費の集金や督促に費やす時間をもったいないから、カンパだけで運営しています。ニュースを読んでもらえる人のリストがすなわち会員という扱いです。

毎年5月には憲法集会を行っています。300人ほどの会場を使って講演会を開いていますが、今年はコロナで定員の半数までと人数制限があり、苦慮しています。講演

会は高名な方をお願いすれば多くの方を集めることが出来、集会は「成功」ということになるのですが、必ずしも多様な層の人たちには広がりません。私たちの会員は数百名で、ご多分にもれず高齢者が多いですが、若い人たちに関心を持ってもらうためにはどうすればいいか腐心しています。

中野晃一先生のご紹介でシールズのメンバーでつくば大学の大学院生の諏訪原健さんに若い世代の視点から話をしたり、元 CIA のスノーデン氏と単独インタビューをして注目された小笠原みどりさんに、監視社会の恐ろしさを話していただくなど、できるだけ視野を広げ好評でした。

また5月の憲法集会は、敢えて3日を避けて他の同様の集会と競合しないように企画しています。今年は九条の会世話人の清水雅彦先生にお願いしていますが、コロナ禍の下、またまた感染拡大の勢いが増している中なので、実施できるのかどうか不安はあります。しかし、そのためのチラシを配布したりすること自体が、改憲の危険を市民に訴える機会だと考えています。

今年の会を開くにあたって世話人会で討議し、これまで辛うじて専守防衛にとどまっていた政府が、ついに敵基地攻撃まで容認するところまで踏み込んだ、実質改憲の自公政権の危険を知ってもらおうということになり「敵基地攻撃まで来た改憲策動の危険」というテーマでお話しいただきます。

菅内閣は最悪と言われた安倍内閣を継承した変異種ですがいっそう悪性のようです。蔓延防止、根絶のためにがんばりましょう。

学習に役立つ新ブックレット

【横浜市戸塚区／東戸塚九条の会】 九条の会のブックレット、菅政権の成立と改憲問題の新局面、こちらの九条の会で斡旋され、再読しました。有難うございました。アーミテージ報告の日本への要求、それを受けた日本側の敵基地攻撃能力の保有、さらに、小森事務局長の的確な質問、大変参考になりました

アーミテージ報告の作成主体である戦略国際問題研究所（CSIS）は、アメリカ合衆国のワシントンD.C.に本部を置くシンクタンクということですが、その日本部には、防衛省、公安調査庁、内閣官房、内閣情報調査室、日本貿易振興機構や損保会社、NTT職員も研究員として名を連ねている由。

毎回のアーミテージ報告も、あたかもアメリカ側からの一方的な要求でなく、日本側が、CSISの名前を借りて、既成事実を積み上げ、改憲に持ち込もうとしている、そのように、複合的に理解しました。（横浜市、東戸塚九条の会会員打越 芳信）

《ブックレット「菅政権の成立と改憲問題の新局面」

◇バイデン政権の成立と日米軍事同盟の強化—第5次アーミテージ報告にもふれて
ジャーナリスト 布施祐仁

◇「敵基地攻撃能力保有」のいま
軍事評論家 前田 哲男

◇学術会議会員任命拒否と反憲法政治
慈恵医大教授 小沢 隆一

資料 20年12月8日閣議決定／国民を守るための抑止力向上に関する提言／日米安全保障協議委員会(2+2)提言

頒価 1部500円(〒別) 10部から割引